

NPO 法人 住まいのホームドクター／設計者

460-0017 名古屋市中区松原 1-17-6 朝日軒ビル 3階

**HD** ニュース  
No. 100  
2022. 12. 16

## 今後の予定

12/20 18:30～ 相談委員会(終了後忘年会 コロナの様子次第)

1/10 18:00～ 三役会

1/17 10:00～ マンション・ビル大規模修繕研究会

## 「住まいと健康」電話相談の結果報告

副理事長 森 登

3月31日に、稲沢市内在住の一人暮らしで高齢(70歳前くらい)のご婦人から相談がありました。

下記のように報告させていただきます。

### ○相談内容

珪藻土(内装材として塗ってある)が臭うので、どのように対処したらよいか、アドバイスが欲しい。

- ・臭いを取り去る為に、濡れた雑巾で一生懸命に珪藻土を拭いて綺麗にしているが、一向に臭いが消えない
- ・バケツで濯ぐと、底にクリーム状の粉のようなものが、溜まる
- ・1年ほど前から臭いが気になり始め、一生懸命、壁をきれいに拭き掃除している
- ・このころから体調を崩すようになり始め、肺に疾患が見つかった
- ・珪藻土との因果関係が有るのかも、知りたい
- ・内装をやり変えることも視野に入れなければならないのか???

○4月5日欠陥住宅被害の相談に切り替え、現地確認・ヒヤリングを行いました。

結果は下記のとおりです。

- ・特段、臭いはしない(天気都合が関係するか・・・)
- ・珪藻土の壁が、タオルで拭き過ぎた状態で、ツルツル=凸凹のエッジが滑らかなラウンドになっていた
- ・きれい好きな性格の為、床にホコリも無く、きれいに整理整頓されている
- ・窓を閉め切った状態で、普段は換気扇を使用しない生活
- ・空気の取り入れ口が無い
- ・脱衣場は外気に面しておらず、かびやすい
- ・キッチンも、従って、臭いがこもりやすい

### ○住まい方のアドバイス

- ・珪藻土と肺の疾患(肺マック症)との因果関係は、医者によく相談して、健康状態を観察することから始めるしかない
- ・少なくとも、換気を心がけるために、サッシを少し開ける(=空気の取り入れ口)
- ・普段は、浴室・トイレの換気扇をつけ放しにする
- ・臭いが気になったら、キッチンの換気扇を付ける
- ・積極的に窓を開け、空気を入れ替える
- ・昼間、家にいるのではなく、用事を作って、積極的に外へ出かける
- ・リフォーム詐欺に引っかからないように、妙な話で返事に困ったら、当方に連絡をすること

○7月20日「床に溜まっている物質の成分が知りたい」との要請を受け、相談宅へ出向きサンプリング(拭き掃除が徹底されていたため、ほんのわずかなサンプルしか取れなかったが)をおこなった。

○9月8日、分析結果の報告をおこなった。

- ・壁の珪藻土と床の堆積物とを光分析した結果「反応の特性に共通点が見られる」という結果により、ほぼほぼ、壁の珪藻土の粒子が浮遊して、時間をかけて床に堆積していると思われる。

(肺マック症は、高齢な婦人が主にかかりやすい疾患で、はっきりした原因は不明。一般的には、土の中やシャワーヘッド・蛇口などの湿潤環境下で繁殖している菌が肺に入り込んで発症する病で、肺の中で患部が移動する特徴がある)

- ・珪藻土との因果関係は不明だが、医者のアドバイスに従って、経過観察するしかない

### 【今後に向けて】

状況が変わるようであれば、建築的に可能な手段をアドバイスできるので、当方等に再度相談して欲しい。悪質リフォーム詐欺に引っかからないようにと、念押しをした。

11月19日に岐阜県中津川市にある常盤座と同恵那市にある横井照子ひなげし美術館へ見学会に行ってきました。



常盤座外観(中津川市指定有形文化財)

まず常盤座ですが、これは江戸末期から現在に至るまでの中、どんどんなくなってゆく劇場型農村舞台のうち地域近郷で唯一現存しているもので、今も歌舞伎やお芝居の上演なので活用されています。今回は道路渋滞などの問題で建物をしっかり見学することはできませんでしたが、花道や二階席なども用意されたしっかりした舞台で、当日はイベントで演劇等の公演も行われていました。

構造的には表しとなった太い構造材が縦横無尽に複雑な仕口で組みあわされて構成され、伝統的な建造物として、趣のある雰囲気醸し出しています。

そもそもこのような舞台は、昔は地域の方々の娯楽の中心として日本各地にあったのですが、娯楽の多様化などで姿を消してしまい、現存するものは多くありません。

これは少し悲しいですね。



美術館外観

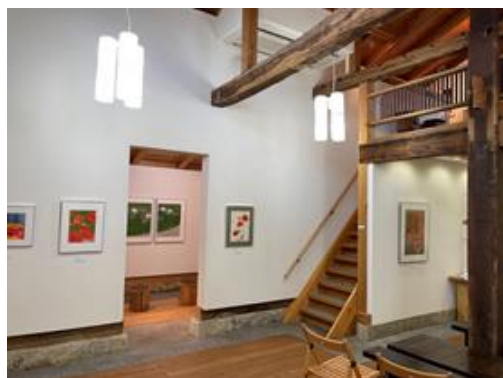
続いて横井照子ひなげし美術館ですが、これは岐阜の銘菓栗きんとんで有名な川上屋の敷地内に建設されていて、元々川上屋の社長が横井さんの作品に深い感銘を受けてのち、建設された美術館です。横井照子さん自身はその活動を欧米などの海外を中心にこなされておられた為、日本国内ではそれほど有名ではありませんでしたが、それでもあのひなげしの絵は、皆さん一度はどこかでご覧になっていることかと思えます。なお、川上屋商品の包装紙にも横井さんの作品が描かれているものがあります。

建物自体は岐阜県の異なる場所に建てられていた二つの木造建物を現地に集合・移築する形で建てられており、外観上は二つの棟が渡り廊下でつながれたような形状となっています。美術館内部は、展示されている赤いひなげしの花の絵画が映える白い壁面の内装と、ところどころに露出した構造材がとてもよく調和していると感じました。

また、館内ではお抹茶をいただくことができ、茶の香りを堪能しながら建物と絵画を鑑賞することができる非常に贅沢な空間でくつろいだひと時を過ごすことができました。



美術館外観渡り廊下



美術館内観

見学会の続きで芝居について少々。

常盤座では”2022 常盤座演劇フェスティバル”が11/19(土)・20(日)に行われていた。見学会行程の都合上、劇団なんじゃもんじゃ西尾瞬三のひとり芝居「悔悟の記録」だけを観劇した。滝井理事長が鈴木隆二設計事務所時代にうりんこ劇場(名東区)の設計監理をしたご縁で役者の西尾さんと親交があったため、今回の見学会コースとなった。

朝日新聞記者が戦時中に憲兵であった土屋芳雄(1911-2001)をインタビューにした新聞連載を加筆まとめた『聞き書き ある憲兵の記録』(朝日文庫/1991)を西尾瞬三が読み「生々しい体験に体が震え」山形県神山市に住む土屋へ会いに行った。生き証人である土屋は老い先を意識し「俺の代わりに語ってくれ」と多くの資料を渡し、戦争の悲惨さを伝える為にこのひとり芝居となった。

土屋は「虫を殺してもバチが当たる」と殺生を嫌った貧しい農家の少年だった。小学校時代は級長を任される程の出来だったが、貧農の子は兵隊になるよ

り道がなかった。憲兵の給料は二等兵の7倍で郷里に仕送っていた。昭和6年に関東軍独立守備隊に入隊し中国に渡る。尋常高等小卒の土屋は猛勉強の末、昭和9年旧満州国関東軍憲兵となり13年間に直接間接含め反満抗日分子を中国・朝鮮・アジアで328人を殺し1917人を逮捕・拷問・投獄した。終戦後はシベリア抑留6年、中国戦犯管理所6年。日本への帰国は昭和31年8月。

本劇は、満州事変,シナ事変,大東亜戦争と続く「15年戦争」について、時代背景と伴に触れている。土屋とインタビュアーの二役を西尾が演ずる事により、生の証言者から聞いた戦争の真実を知って貰おうと分かり易くしている。映画『ラーゲリより愛を込めて』のシベリア抑留生活の悲惨さに対し、中国は日本の戦犯に人道的に扱ったなどの出来事もこの作品には随所に出てきた。

土屋芳雄の”悔悟の念”を誰もが持たずに生活できる日常。西尾瞬三のメッセージが世界の人々に届けば・・・

■相談委員会 10/25 18:00~18:30 (Zoom 併用)  
無料電話相談の報告。リーフレットについての協議。住まい管理支援機構でパネリスト(森さん)既存住宅調査部会:2件の調査実施。ビレッジハウス(旧雇用促進住宅)の状況調査報告業務について。

■三役会 11/8 18:30~19:10 (Zoom 併用)  
会員動向、収支状況、委員会の活動状況について。  
■マンション・ビル大規模修繕研究会 11/1 18:30~19:10  
鳥見パークマンション大規模改修の調査・設計監理見積りについて。リーフレットについて。